

昭和55年度 むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査 —卵・稚仔調査— (要 約)

早川 豊・小倉大二郎・中西 広義

調 査 方 法

- 1) 調査年月日……………第 1 回：昭和55年 6 月 4 日、第 2 回：昭和56年 1 月14日
- 2) 調 査 地 点……………上北郡六ヶ所村平沼～尾駁沼沖合 1 km 内の 7 線、14 点
- 3) 採集用具と方法………㊦ 稚魚ネット、表層水平曳 3 分、曳網速力約 2 ノット
- 4) 採集物の処理……………採集した材料は船上で10%中性フォルマリン溶液で固定後実験室へ持ち帰り、種の査定と計数および大きさを測定した。

調 査 結 果

採集された卵・稚仔の種類、個体数などを下表に示した。

調査 項目	第 1 回 調 査	第 2 回 調 査
環境条件	水深 5～15 m、水温 10.8～11.6℃ 透明度 5.0～9.0 m	水深 6～20 m、水温 9.2～10.6℃ 透明度 6～20 m で水深以上
稚仔魚の 出現状況	約 7 種、15 個体、ハゼ科 2 種 2 個体 ムラソイ 2 個体、その他稚仔魚 4 種 11 個体 でふ化直後の個体が多かった。	アイナメ 1 個体
魚 卵 の 出現状況	6 種以上、40 個体、種類数は南側に、個体 数は北側に多かった。距岸 500 m 線と 1,000 m 線では 1,000 m 線に多かった。	採集されず

過去 3 ケ年の結果と今回の結果を総括すると、本海域の卵の出現は水温 18℃前後を超える 7～8 月の間に多く、水温 11℃以下の時期は極めて少ない。また、稚仔魚は 7 月を中心に多い。この海域周辺の別の調査結果をみても、6～7 月を中心にマイワシ、カタクチイワシ、サヨリ、その他多種の卵が採集されており、同時にシラス型稚仔、メバル属、サヨリ、その他多種の稚仔が採集されている。一方、秋～冬季は、種類、量とも少ないが、アイナメ稚仔やスケトウダラ卵など特定種の卵・稚仔が採集されている。



調査の詳細な報告は、近く県漁政課で印刷される予定。